

## 無痛分娩について

無痛分娩とは麻酔によるコントロールをおこない痛みを少なくして分娩する方法です

当院では硬膜外麻酔による無痛分娩を行っています

### <硬膜外麻酔の方法>

無痛分娩に使用するときには、背中のお尻に近い部分に痛みどめ(麻酔薬)を注射します。そこから針を入れ、硬膜外腔にチューブを挿入してから針を抜きます。チューブだけを体内に残しテープで固定します。ここから麻酔薬を注入し脳への痛みのもとが伝わるのをブロックします。

このとき、副交感神経が優位に働くので妊婦さんはリラックスしてお産ができます。

### <硬膜外麻酔による無痛分娩の利点>

- ① 分娩中の痛みが軽減される
- ② 痛みのストレスから解放される
- ③ 体力の消耗が少なく、産後の回復が早くなる
- ④ 副交感神経が優位なので産道が広がりやすく、会陰裂傷の程度がひどくなく、痛い
- ⑤ 陣痛はお腹の張りとしてわかるので、自分でいきんで出産ができる

### <無痛分娩のデメリット>

陣痛が弱まりやすい(微弱陣痛)

⇒無痛分娩では陣痛が弱くなり、陣痛促進剤の使用、そして吸引分娩が必要になることがほとんどです

### <硬膜外麻酔の合併症>

血圧低下、頭痛、硬膜外出血、高位麻酔、腰痛、血管内注入、局所麻酔中毒、麻酔薬アレルギー

### <分娩の流れ>

- ① 陣痛が開始してから、または破水後入院します。
- ② 陣痛があり、子宮口がある程度まで開いている、または妊婦さんが感じる痛みの強さを確認してから、チューブを挿入し麻酔の準備をします。
- ③ 点滴で陣痛促進剤(誘発剤)を注入
- ④ 分娩の進み具合に従って、麻酔薬を調節する。

お産の進行が早くて麻酔のチューブ設置が間に合わない場合があります。

麻酔が開始されるまでは通常の出産と同じなので痛みを感じます。

チューブの準備をした後はベッド上で過ごします。血圧測定、酸素分圧測定の管理をしながら過ごします。

無痛分娩中は陣痛をお腹の張りとして感じる事ができるので、自力でいきんで出産します。

いずれのお産の場合もお産の進行状況によっては、急遽帝王切開になることもあります。これはママと赤ちゃんの安全を最優先にするために、無痛分娩だけでなく、全てのお産に共通したことです。

無痛分娩を希望しても、誰もが受けられるわけではありません。

妊婦さんやお腹の赤ちゃんの状態によって、無痛分娩に適應できるか判断されます。

血が止まりにくい、背骨に変形がある、神経の病気がある、または硬膜外腔にチューブを入れる箇所に膿瘍がある、などのケースでは無痛分娩ができません。

以上のことを了承、同意し、無痛分娩を希望します。

自署

㊞